

罾による、クマの乱獲・過剰捕獲を止めよう



クマは本来、とてもおだやかな動物です。

罾免許保持者が激増しており、自然界は罾だらけです。

クマは簡単に罾にかかるため、大量に捕殺されています。

放獣体制不備のため、誤捕獲グマが大量に殺されています。

2019年度 **ツキノワグマ過去最多4982頭駆除**

(ツキノワグマ国内推定生息数1.3万頭～2.1万頭 2011年哺乳類学会)

生態系保全上、倫理上、クマ類の罾捕獲の規制強化と放獣体制の確立を

奥山再生で、クマとの棲み分け共存を復活させよう



本年度は、環境省の特定鳥獣保護・管理計画作成のためのガイドライン（クマ類編）の改訂年です。罾によるクマの捕獲に強い規制をかけてもらいましょう。新型コロナが終息したら、ぜひ署名集めにご協力ください。



環境大臣様 農林水産大臣様 衆・参両議院議長様

—奥山水源の森にはクマが必要、大量捕殺を中止してください—

クマの乱獲をもたらしている罠捕獲の規制強化を

<奥山荒廃でクマが人里へ> 戦後の開発やスギ・ヒノキの人工林政策により広大な奥山天然林が失われ、残されたわずかな天然林は地球温暖化や酸性雨によって近年著しく劣化、奥山生態系を支えてきた昆虫も激減しています。その結果、野生動物たちが食料を求めて里に大量に出てくるようになりました。地元も悲鳴を上げており、クマは危険であるとして直ちに捕殺されています。過疎化・高齢化による里山放置も、人と動物の境界線を失わせており、獣害増加の原因の一つです。

<罠を使うとクマを獲り過ぎる> 奥山水源の森を守ってきたクマは、銃では簡単には獲れません。しかし、近年、米ヌカなどクマの好物を入れた膨大な数の罠が設置されるようになり、子連れの母グマや、人身事故と無縁の子グマまでもが、罠におびき寄せられて大量に捕殺されています。2019年度（12月末まで）のクマの捕殺数は5667頭で過去最多（ヒグマ684頭、ツキノワグマ4982頭）でした。クマは繁殖力が弱いので、罠の設置場所、設置数、設置期間、誘引物などに早急に強い規制をかけないと、絶滅する恐れがあります。クマ問題をクマを殺さずに解決するため、以下を要望します。

<要望事項>

- 1 奥山人工林の広葉樹林化を急ぎ、クマと人が棲み分けて共存できるよう、生息地を再生する。
- 2 クマを寄せ付けない集落作りや人身事故防止のための地元啓蒙を、公的支援で行う。
- 3 奥山のクマ生息地での罠の設置、被害がないのに長期に亘り誘引物で不特定のクマをおびき出す罠の設置を禁止する。
- 4 クマの誤捕獲を避けるため、シカ・イノシシの捕獲にあたっては、箱罠の中にクマの好物を入れず、くくり罠は真円12cm以下を厳守する。
- 5 クマ放獣体制を完備して、誤捕獲されたクマは山に返す。
- 6 統計もなく無秩序に全国に設置している大量の動物捕獲罠の実態を調査し、規制をかける。

	名 前	住 所 （都道府県から）
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

呼びかけ団体：一般財団法人日本熊森協会 取扱い個人名または団体名（ ）

署名用紙送付先 〒662-0042 兵庫県西宮市分銅町1-4 日本熊森協会 2020年度4月作成 ネット署名もあります。

Tel：0798-22-4190 Fax：0798-22-4196 E-mail：contact@kumamori.org

※署名は必ず原本を郵送でお送りください。お預かりした個人情報、他の目的には使用しません。